

# 文学の小径地区

(群馬県渋川市)

- 計画期間 平成16年～平成20年
- 面積 72ha
- 交付対象事業費 2,032百万
- 市人口 86,368人 (地区内人口 1,468人)

**ポイント** 伊香保温泉の顔である石段街を磨き、地域が一体となって温泉情緒と賑わいを再生

**地区概要** 人に優しい街路・広場整備や交通環境の充実、街の景観づくりを進めることにより、在住者・来訪者を問わず、皆が憩える観光温泉地情緒を創出していく。

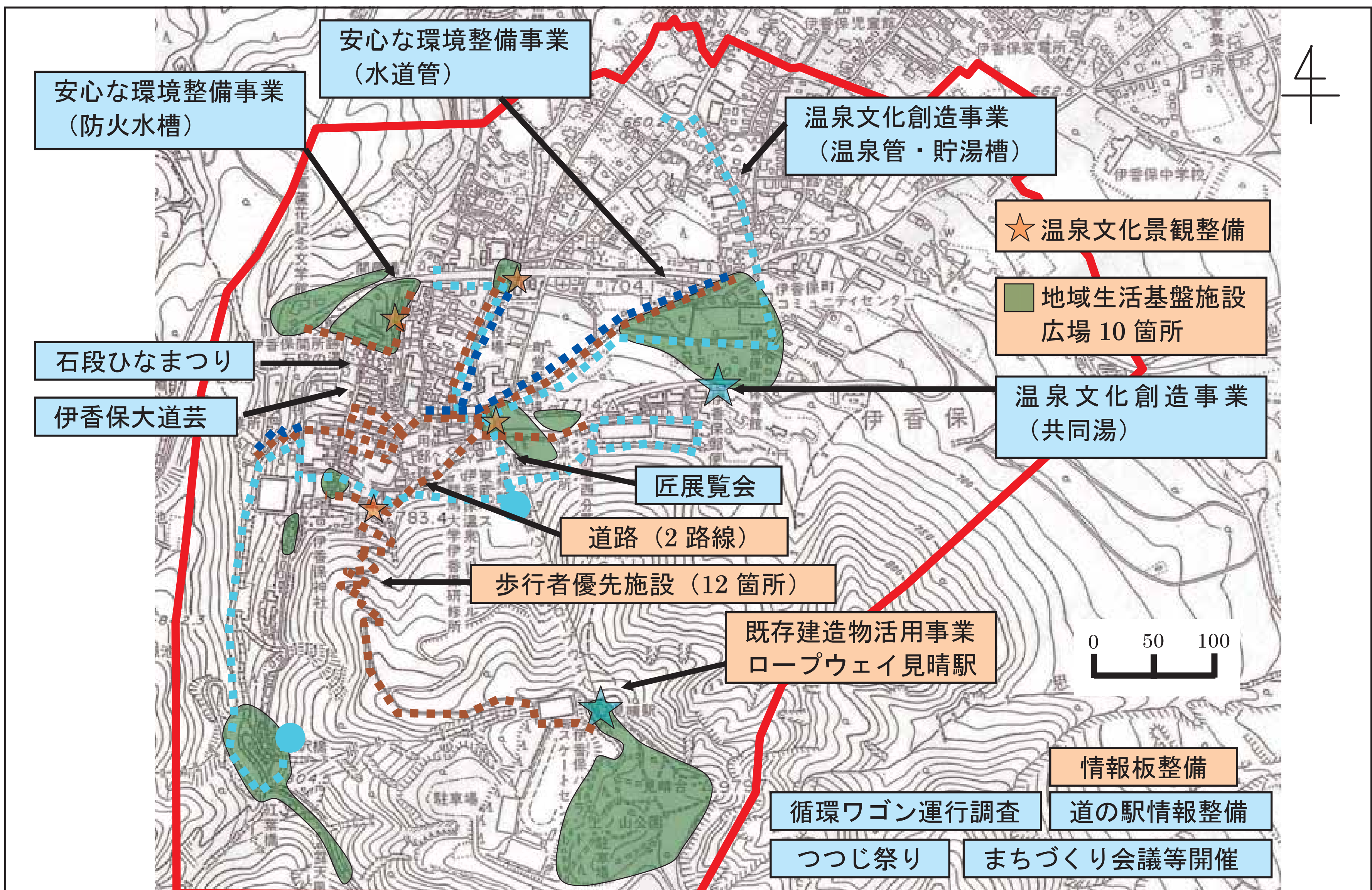
**目標** 在住者と来訪者に優しい温泉情緒に満ちた街づくり

**指標** 石段街とバスターミナルの2箇所の拠点性向上による商業地の再生と、訪れた人々が、そこに住み働く人々の環境や笑顔に対し満足していただくことを目標に掲げ実現を目指している。

地区宿泊者	110万人/年 (H16)	→	125万人/年 (H20)
ロープウェイバス利用者	10万人/年 (H15)	→	13万人/年 (H20)
まちの駅利用者	6万人/年 (H15)	→	9万人/年 (H20)
森林公園利用者	9.7万人/年 (H15)	→	12万人/年 (H20)

**事業内容** 基幹事業 (1,563百万円) → 道路(2路線、総延長1,110m)、広場(10箇所、約6ha)、情報板(歩行者向97箇所、車両向30箇所)、歩行者優先施設(12箇所、5,775m)、温泉文化景観整備(4箇所)、既存建造物活用(ロープウェイ見晴駅)

提案事業 (469百万円) → 温泉文化創造事業(温泉管、貯湯槽、共同湯)、安心な環境整備事業(水道管、防火水槽設置)、循環ワゴン運行調査、まちづくり会議等開催、石段ひなまつり、つつじ祭り、伊香保大道芸、匠展覧会、道の駅情報整備





## 地区の現況と課題

本地区は、古くから伊香保温泉として観光産業を中心に、高度成長期から北関東の奥座敷として発展を遂げてきたが、バブル期以降、長引く景気低迷、観光客の動向やニーズの変化に対応できず、宿泊客数の減少など、地区の中心である観光産業が衰退傾向にある。

## 提案事業の特徴

**温泉文化創造事業** 温泉地風情の具現化のため、手軽に利用できる共同湯や、身近に接することのできる温泉の流れの演出により、伊香保温泉本来の温泉地情緒や文化を創造する。

**安心な環境整備事業** 温泉街密集地の道路整備にあわせ、昭和 17 年に整備され、老朽化した水道管網の再整備と、防火水槽を整備する。

**パークアンドライド調査** 歩く賑わいを創造するため、温泉街の中心地である石段街への循環ワゴン運行調査を実施し、地区内における本格運行を実現した。

**誘客イベントの開催** 石段街をさらなる伊香保の顔とするため、石段ひなまつりや大道芸、さらには石段街を眺望するつつじ祭りを開催委託し、現在は民間団体により継続的に開催されている。

**まちづくり会議・塾の開催** 官民協働のまちづくり実践のため、『学び実践塾』等を運営し、その成果を元に再生計画の見直しと改善を図るとともに、新たに提案された道の駅情報整備などの計画策定と実現化を検討している。

## 計画策定プロセス

**官民協働による再生計画策定委員会** 住民参加による『まちづくり会議』の成果に基づく当初の再生計画について、平成 16 年夏に発生した温泉不正表示問題に対応するため、温泉地としての抜本的な再生計画の早期策定が求められ、官民協働による創発調査実施により、その成果を反映させた再生計画の変更を行った。

**事業評価を担う学び実践塾** 「改めることにはばかる事なかれ。」を合言葉に再生計画の本質について、官民で学び、事業評価すると共に、改善点の具体的な提案を市長の前で発表した。

**各種計画策定** 官民協働の学び実践塾と、行政内部の具体的な行動計画の策定に向けた庁内委員会が、互いに情報共有しながら、官民の役割を明確にして、実行可能な計画に仕上げる。

**民間主導型の継続的なまちづくり活動への取り組み** 事業後も地域の旅館や、各種団体等が民主導で継続的に取り組める様に、学び実践塾の運営や専門家の派遣など、人材の発掘・育成に努める。

## 渋川市長 木暮治一氏のコメント

「第 3 回まち交大賞」において、プロセス賞を受賞したことは大変名誉なことと感じております。文学の小径地区のある伊香保温泉は市の観光産業の中核を担っており、市の総合計画においても重点プロジェクトに位置付けております。こうした中でのプロセス賞の受賞は、今後の事業推進にあたり、とても励みになるものと考えております。これは、地域の皆様と一緒に進めてきた結果であり、今後も引き続き、再生への努力と活性化に向けての施策を展開していきたいと思っております。



▲伊香保温泉の全景



▲伊香保温泉の顔、石段街で行われた大道芸



▲調査後、本格運用している伊香保タウンバス



▲休憩スペースも兼ね備えたトイレ



▲学び実践塾開催の様子（ワークショップ形式での検討

==== 伊香保温泉観光振興協議会長  
福田朋英氏のコメント

伊香保地域の観光産業発展に向けた取り組みが、今回の受賞という形で評価されたことは、地域に住む我々にとっても大変喜ばしく、誇りに思います。

今後も地域の発展に向け、行政と民間がうまく連携し、それぞれがすべきことを確認しあいながら、プロセスで終わらぬよう、実現に向け頑張る所存です。

==== 第2区活性化委員会委員長  
大森隆博氏のコメント

私どもも関わりながら進めてきた伊香保地区の取り組みが表彰され、大変ありがたく思います。

観光産業が中心である伊香保地区における地域の活性化に向けて、民間として、地域としてできることを話し合いながら、また、行政の方とも連携しながら、取り組んでまいりました。

今回の受賞を励みに、行政と民間の役割を明確にしながら、より活発に活動していきたいと思えます。